

平成28年度 病害虫発生予察情報

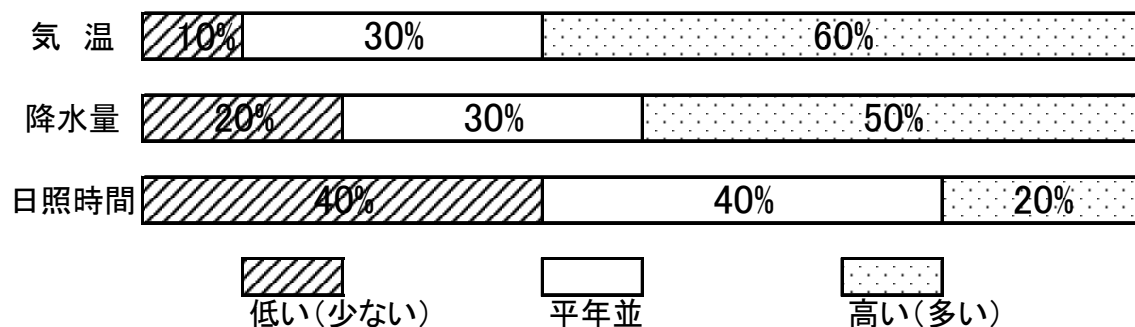
発生予報第7号（9月）

平成28年9月5日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	平年並
		紋枯病	平年並～やや少ない
		白葉枯病	少ない
		ツマグロヨコバイ	平年並～やや多い
		トビイロウンカ	やや少ない
		斑点米カメムシ類	平年並
		ハスモンヨトウ	やや多い～多い
		黒斑病	少ない～やや少ない
		シンクイムシ類	やや少ない
		ハダニ類	やや少ない
果樹	ダイズ	カメムシ類	平年並～やや多い
	ナシ	うどんこ病	平年並
		カキミガ	平年並
		カメムシ類	平年並～やや多い
		アブラムシ類	平年並
野菜	アブラナ科野菜	コナガ	多い
		アオムシ	平年並～やや多い
		ハスモンヨトウ	やや多い～多い

中国地方1か月予報(9月3日～10月2日・広島地方気象台9月1日発表)
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県内全域（きぬむすめ等で出穂期の遅いもの）

発生量

平年並

予報の根拠

①きぬむすめの一部でいもち病の発生が認められる。

②向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量 平年並～やや少ない
予報の根拠
①全般の発生量はやや少ない。
②向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容
発生地方 常習発生地
発生量 少ない
予報の根拠
①全般の発生量は平年に比べて少ない。
②向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い
予報の根拠
①8月26日～31日の巡回調査では、捕獲虫数19.4頭/50株（平年34.4頭）、発生ほ場率67.5%（平年69.3%）で発生量は平年並みである。
②8月第6半旬までの予察灯への総誘殺数は922頭（平年420.8頭）で平年に比べてやや多い。
③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(5) トビイロウンカ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや少ない
予報の根拠
①8月26日～31日の巡回調査では、捕獲虫数0.1頭/50株（平年4.2頭）、発生ほ場率2.5%（平年36.8%）で発生量は平年と比べてやや少ない。
②8月第6半旬までの予察灯への総誘殺数は0頭（平年13.1頭）で平年と比べて少ない。
③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(6) 斑点米カメムシ類

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並
予報の根拠
①8月26日～31日の巡回調査では、捕獲虫数1.6頭/20回振り（平年2.6頭）、発生ほ場率30.0%（平年50.3%）で全般の発生量は平年に比べてやや少ない。
②斑点米カメムシ類の優占種はクモヘリカメムシとアカスジカスミカメである。
③8月第6半旬までの予察灯へのアカスジカスミカメの誘殺数は208頭（平年226.2頭）で平年並みである。
④向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや多い～多い
予報の根拠
①現在、巡回調査での本種幼虫による1a当たりの白変か所数は1.2か所（平年0.3か所）と平年より多く、発生ほ場率は53.3%（平年20.9%）と平年よりやや多い。
②フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で平年比138.4%、県西部で132.4%と平年よりやや多い。
③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
注）平成28年度 病害虫発生予察情報 技術資料第5号 参照。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容
発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯

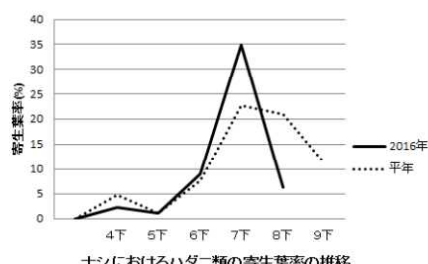
- 発生量 少ない～やや少ない
 予報の根拠
 ① 8月下旬の巡回調査では発病葉率は7.4%（平年15.5%）であり、平年と比べて少ない。
 ② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) シンクイムシ類

- 予報内容
 発生地方 ナシ栽培地帯
 発生時期 平年並
 発生量 やや少ない
 予報の根拠
 ① 予察ほ場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期は平年並みであり、誘殺数はやや少ない。
 ② 向こう1か月の気象は発生にやや助長的である。

(3) ハダニ類

- 予報内容
 発生地方 ナシ栽培地帯
 発生量 やや少ない
 予報の根拠
 ① 8月下旬の巡回調査では、寄生葉率は6.3%（平年21.1%）で少ない。
 ② 向こう1か月の気象は発生にやや助長的である。



(4) カメムシ類

- 予報内容
 発生地方 ナシ栽培地帯
 発生量 平年並～やや多い
 予報の根拠
 ① 予察ほ場（出雲市）の8月第1半旬から第6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は974頭（平年807.5頭）と平年並みである。
 ② 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

2) カキ

(1) うどんこ病

- 予報内容
 発生地方 カキ栽培地帯
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ① 8月下旬の巡回調査では発病葉率は13.8%（平年11.3%）であり、平年並みである。
 ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ（第2世代）

- 予報内容
 発生地方 カキ栽培地帯
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みである。
 ② 向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

- 予報内容
 発生地方 カキ栽培地帯
 発生量 平年並～やや多い
 予報の根拠
 ① 予察ほ場（出雲市）の8月第1半旬から第6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は974頭（平年807.5頭）と平年並みである。
 ② 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

①現在、巡回調査での発生ほ場率は66.7%（平年68.8%）、寄生株率は10.0%（平年12.7%）でほぼ平年並みである。

②現在、黄色水盤への有翅虫の飛来量はやや少ない。

③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) コナガ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 多い

予報の根拠

①現在、巡回調査での発生ほ場率は75.0%（平年19.7%）、寄生株率は21.7%（平年3.6%）で平年より高い。

②向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(3) アオムシ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

①現在、巡回調査での発生ほ場率は41.7%（平年40.7%）、寄生株率は5.8%（平年9.5%）でほぼ平年並みである。

②向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや多い～多い

予報の根拠

①現在、巡回調査での発生ほ場率は16.7%（平年6.7%）、寄生株率は1.7%（平年0.9%）で平年よりやや高い。

②フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で平年比138.4%、県西部で132.4%と平年よりやや多い。

③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

注) 平成28年度 病害虫発生予察情報 技術資料第5号 参照。

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>